

# 高等部研究

## 学部研究テーマ

～「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」の実現を目指した授業改善～

実態差が幅広い高等部において、「社会の中で自分らしく豊かに生きていく力」を育てる授業を行うためには、生徒一人一人が「主体的にそして意欲的に学びを楽しむ」ことのできる教育環境を整え、「深く学ぶ」ことのできる授業実践を目指していきたい。今年度の高等部研究では、昨年度の個別授業での研究の成果と課題を生かし、集団授業の実践を繰り返すことにより、生徒一人一人のわかる授業につなげ、集団としての授業力向上、また、「総合的な探究の時間」への理解、高等部3年間の学習の系統性の整理を目指していく。

### ◎研究グループの概要

今年度の高等部は、知的障害教育課程であるⅠコースの生徒34名、自立活動主体の教育課程であるⅡコースの生徒1名の計35名が在籍する。Ⅰコースは、小学部から本校に在籍し基礎的な学習を積み上げてきている生徒、中学部や高等部から在籍し教科学習を中心に集団の中で学習してきた生徒など、実態は幅広い。Ⅱコースの生徒は、知的障害と肢体不自由を合わせ有し、自立活動主体であるが、一部の教科において学習指導要領小学部1段階を目標に学習に取り組んでいる。在籍生徒が1名のため、集団性の確保や本生徒の実態からⅠコースの授業にも参加している。総合的な探究の時間は学年毎に行っている授業のため、学年毎の3グループで研究を進める。

### ◎研究経過

- ①高等部全体での研修
  - ・「総合的な探究の時間」「主体的・対話的で深い学び」について研修会を実施する。
  - 授業や単元における目標設定や評価規準、学習評価について、考え方の共通理解を図る。
- ②グループ研究
  - ・授業計画の単元目標内容、評価規準を確認する。
  - ・授業改善シートに、日々の授業を記録する。
  - ・授業改善シートで授業を振り返り、授業改善につなげる。
- ③事例発表
  - ・事例について、授業シートを活用して協議する。
  - ・学部内の系統性について確認する。

### 総合的な探究の時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学年	基礎領域(富士山)				基礎領域(富士山)							学年社会(国文、文化、音楽、美術の各1)
2学年	知識の学習(インフット)、調べ方の学習、調べ学習				知識のインフット、体験的学習、調べ学習							
(1学年)	基礎領域(富士山、自然、動物、食や取、伝統)											
3学年	体験(作る、遊ぶ、動く)タブレットの使いこ、タブレットを使っている調べ学習											
(1学年)	理科				社会							学年社会
2学年	基礎領域(地域、産業、学校間交流、総合学習事例)				調べ学習、近畿圏							基礎領域(地域、富士山、編織)
(2学年)	調べ学習(資料、タブレット)				調べ学習、まごめ、発表(タブレット等の活用)							調べ学習
3学年	身の回りの事例、富士北麓地域、山梨県				身の回りの事例、基礎工芸、近畿圏							近畿圏、調べ学習
(2学年)	調べ学習(資料、タブレット)				調べ学習、まごめ、発表							調べ学習(タブレット、タブレット)
3学年	調べ学習、近畿圏(体験、見学等)				近畿圏							学年社会
(3学年)	調べ学習(資料、タブレット)、まごめ、発表				調べ学習先行再探究、調べ学習、体験学習、まごめ、発表							

### ◎研究の成果と課題

#### 【成果】

- ・授業改善シートを活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点を持ちながら総合的な探究の時間の授業内容の設定や教材の工夫を行い、改善につなげることができた。
- ・昨年度の研究で行った個別授業での「主体的・対話的で深い学び」のポイントを整理し、集団授業での実践と相互に関連しながら生徒一人一人のわかる授業につなげることができた。
- ・グループ研究で実践について検討することで、学年教員全員で生徒の実態を把握し、目標設定、評価規準を見直しながら共通の視点を持ち、生徒への適切な関わりへとつなげることができた。
- ・事例発表を行うことで、他学年の実践について共通確認するとともに、助言などを受け、授業実践を深めることができた。また、学部としての学習の系統性の整理を行うことができた。

#### 【課題】

- ・実践事例が少ないため、基礎研修を行うとともに、PDCAサイクルで授業検証していきながら、生徒たちの実態に合った探究活動を設定していく必要がある。
- ・学年での学習では、実態の幅もあるため、学年集団としての実態を把握していくことや、個々で行った実態把握を集団授業に生かしていくことができると良い。また、目標設定や評価規準について教員間で話し合い、生徒の実態に合う目標設定とその評価を実現できると良い。

### ◎学部研究のまとめ

「総合的な探究の時間」を対象とし、授業実践を積み重ねてきた。全員で研修をする中で理解を深め、ふじざくら支援学校高等部としての総合的な探究の時間について検討する良い機会となった。まだ実践が浅い授業であるため、生徒や学年の実態に合わせた授業づくり、一人一人のわかるを目指した授業の組み立て方などを踏まえながら、さらなる実践を積み重ねることで「主体的・対話的で深い学び」につながることを確認できた。